

稲城市体協

発行 稲城市体育協会
 電話 0423(78)2111
 内線 (642)
 編集 稲城市体育協会
 広報委員 会
 発行日 平成8年2月1日
 年月日 第30号

稲城市体育協会は、昭和43年8月 加盟7団体によって産声を上げた。 あれから27年 大いなる飛躍に向かって発進GO!

ユニ ニ ホッ ク ク 連盟



「ユニホック」は発祥地スウェーデンより78年に初めてわが国に移入された「みんなが楽しめる」室内スポーツです。
 6人ずつのプレイヤーからなる、2チームによってプレーされ、各チームは、相手チームのゴールにスティックを使って、ボールをシュートして得点を競うことと、相手チームのボールを得点させないように防ぐことによって展開される。(ホッケーを簡単にして誰にでもできる競技と考えれば良いでしょう。)

星 菊太郎氏
 東京都
 教育委員会表彰
 稲城市体育協会監事、星菊太郎

田中光男氏
 功勞表彰受賞
 稲城市体育協会、会計理事、田中光男氏が、平成七年度の体育功勞者として、東京都町村体育協

評議委員会開催
 平成七年五月十二日、消防署講堂において平成六年度事業経過報告、会計監査報告等について七年度事業計画(案)、収支予算(案)が審議され承認されました。

基本方針
 スポーツ大会などの自主運営を含め数々の課題を抱え、協会体制の強化、活性化及び内容の充実と加盟団体の主体性の拡大を図り、スポーツツレクレエーション事業にも取り組み、更に親しみ愛着の持たれる協会づくりを目指し活動する。

本年度活動 重点目標
 一、加盟団体の自主性強化と健全財政の確立に努め、今後迎えるべき事業に対応できる力を付けられる活動を推進する。
 二、指導体制を強化し、指導者の技術向上と事故防止強化に努め、全加盟団体が上部大会に参加できる体制づくりを推進する。
 三、市営体育施設の建設、改善に積極的に協力する。
 四、各委員会活動の充実を図り、スポーツ活動のPRを強化する。
 五、姉妹都市女満別町とのスポーツ交流を推進する。

平成七年度



中家敬士氏
 体育功勞者受賞
 氏が東京都教育委員会から表彰されました。この表彰は東京都において地域社会の中で体育、スポーツを通じて社会体育の普及発展に尽力した人に贈られる大変名誉な賞であります。
 氏は、昭和四十八年以来体育協会の評議員として、また軟式野球連盟の設立、後進の指導育成にあたることもに体育協会の監事として稲城市の体育、スポーツの振興と体育協会の発展に寄与した功績により表彰されたものです。

平成七年度 稲城市体育協会 役員名簿

名誉会長	石黒 実
顧問	白井 威
会長	高橋 大助
副会長	福島 佐一
理事長	松浦 里行
副理事長	大河原 克己
理事	志村 寛
常任理事	須藤 正博
常任理事	田中 光男
常任理事	森 清市
常任理事	齊藤 博
常任理事	石井 静雄
常任理事	甲斐 正剛
常任理事	池水 和己
常任理事	福島 栄治
常任理事	城所 孝弘
常任理事	川藤 秀武
常任理事	内藤 静雄
常任理事	木村 和子
常任理事	神田 実
常任理事	大庭 巖雄
常任理事	今井 正夫
常任理事	沢崎 晋一
常任理事	宮崎 光弘
常任理事	遠藤 和美
常任理事	山口 精二
常任理事	市村 重幸
常任理事	荒川 安彦

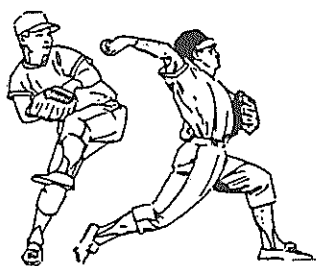
団体受賞
 稲城市軟式野球連盟が、東京都教育委員会より社会体育優良団体として表彰されました。
 稲城市ゲートボール連合が東京都体育協会体育優良団体として表彰されました。

平成七年度 稲城市体育協会 監事

田中 真人
南 豊
榎本 豊
宮坂 富士夫
遠藤 キミ
篠崎 勝子
武田 好史
鈴木 保彦
中家 敬士
芹沢 津子
篠原 永子

平成七年度 稲城市体育協会 評議員会名簿

星 菊太郎
大沢 正晴
藤原 正男
荒井 寿雄
山城 卓児
田中 貞明
五島 文裕
志村 清三
古川 政子
倉岡 弘治
榎本 勝美
小竹 寿英
田中 邦雄
田口 文夫
江越 広弥
吉野 三郎
小林 克美
鎌田 絹江
菅原 春雄
山本 有美
刑部 洋次
石垣 侃也
小堀 武子
坂本 松男
後藤 さゆり
阿部 公徳
石田 芳昭
石坂 淑子
柳浦 忠巳
金沢 則之
倉澤 毅年
関口 俊和
藤長 晃興
田中 保一
足立 保一
中村 真人
前原 一郎



姉妹都市 女満別町交流シリーズ



その一 スポーツ交流

稲城から

女満別へ

9月8日から10日までバレーボールと野球チームの総勢34名が、女満別町を訪問、交流試合を行いました。前年の体協役員の見察研修時のスポーツ交流の約束が実現しました。バレーボールは9人制で稲城チームが女満別のママさんチームを、野球は女満別町役場チームが稲城市役所チームを破り、交流試合を飾りました。

試合後はお互いのプレーをたたえ合いました。

「今回の交流は意義のあるもので、これを機会にさらにスポーツ交流の輪が広がれば」と団長及び監督、息の長い交流が続く事を期待します。

▲ヨロシクね!



▲北海道の大地でプレー

女満別町との スポーツ交流を終えて

平成7年9月8日の早朝、福島団長をはじめとする総勢30名余の交流団を乗せた飛行機が羽田空港を後にし、一路北海道へと飛び立った。

我々を待ち受けていてくれたのは、北海道の広大な土地と澄みきった青空、それに人情味あふれる女満別の町役場、体育協会の方々であった。

今回の交流は、2泊3日の行程であったが、その間、北海道の自然を十二分に満喫できる名所や観光地に案内を頂いたり、懇親会の宴を設けて頂く等、全行程において真心からのもてなしで迎えてくれた。

さて、交流本来の目的である野球の試合ですが、今回「稲城市役所野球部」の相手をして下さったのは、女満別町役場の野球部の方々でした。

試合後に伺った話であるが、女満別町役場の野球部は、過去に全国大会に出場するという輝かしい実績と伝統があるという事でした。「バレーボール」、審判の声、女満別町の野球場にこぼれ、試合開始。勝敗の行方は9回を待

たず、前半で既に決まっていた。結果は、1対8で女満別町役場野球部の勝利。走攻守どれを比べても我々を上回っていた。まさに完敗である。これが北海道の大地で培った力なのかと実感した。

しかし、我々も負けてばかりはいられない。舞台をその晩の懇親会会場へと移し第2戦。乾杯の発声とともに試合(?)開始。判定により僅差で逃げきり、一矢を報いる。これで1勝1敗、次回は是非稲城に招いて決着をつけたい。(できれば野球の試合で。)

ともあれ、この3日間でも多くの女満別の方々との出会いがあり、女満別の方々のあたたかさにも触れる事ができ、また、稲城のバレーボールの方々とも輪を広げる事が出来たことは、我々にとっても大きな財産であります。

今後とも、スポーツだけでなく、あらゆる面で女満別と稲城の交流が深まることを期待しています。

最後に、今回の交流に大変ご尽力頂いた役員の方々をはじめ、事務局及び体育協会の方々によりお礼を申し上げます。大変ご苦労様でした。また、ご迷惑をおかけいたしました。

|| 野球連盟代表
稲城市役所野球部 ||

▼なごやかさの中で闘志が



あとさきになりますが、この度は、女満別町体協、体協及び事務局、体育課の皆様方にはいろいろとお世話を頂き、心よりお礼申し上げます。

アトさきになりますが、この度は、女満別町体協、体協及び事務局、体育課の皆様方にはいろいろとお世話を頂き、心よりお礼申し上げます。

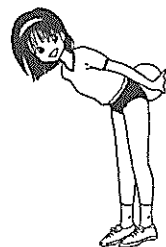
女満別

バレー交流記

今年も冷夏、長雨にたたられた北海道ですが、私達が伺った頃は初秋の最もすがすがしい季節でした。滞在中の3日間は快晴に恵まれ、試合がある事さえ忘れ(考えたくないというのが本音)、地元の皆様にあたたかさも感じました。北海道の秋を満喫させて頂きました。

試合の方は2試合を行い、ストレートで勝つ事が出来ました。各クラブからの寄り合いチームで、3日間だけの練習でどれだけの事が出来るか、また相手などの様なチームなのか、全然わからない中、緊張感と不安で皆バレーと云う言葉すら口に出せない状態でした。

でも一歩体育館に入るとそれは皆それぞれ年季を重ねた人達、親子ほどの年の差も感じさせないほどのなごやかさの中で、若い人を盛り上げ、あるいはひびひびとらったりしながらのうちに試合はどんどんこちらのペースで進みましました。ともすると、個人の技のみに頼るところがありますが、それ以上にチーム内の信頼関係がいかにか試合に大きな影響を与えるか、改めて感じさせてくれるものでした。今回のメンバーは日頃、会議や試合でしか顔を合わすことがありませんでしたが、この様な機会に恵まれ、また野球の方々とも交流の輪が広がった事に感謝しております。



上げたいと思います。

|| バレーボール連盟 ||

録田

▲チームワーク一番



その二

女満別から

稲城へ

平成7年10月20日(金) 22日(日)の日程で、姉妹都市女満別町体育協会より次の方々を来訪されました。

阿野 政義氏(スポーツ少年団本部長)
岩原 繁弘氏(剣道連盟副会長)
坂井 好信氏(バドミントン協会事務局長)
高山 正一氏(ソフトテニス協会事務局長)
元氏 充氏(硬式テニス協会事務局長)

10月20日市役所603会議室に到着後交流会を開催し、助役をはじめ教育委員会より教育長、社会教育部長、体育課長の出席を得て、体協常任理事会役員及び、軟式野球、バレー、サッカー、空手、バドミントン、ソフトテ

女満別町体育協会来訪

10月21日は体協役員と体育課長を含めて来訪団を「よみうりランド」見学で園内を案内(多少、子供の頃を思い出した?)、昼食後は稲城市の産業まつりを見学、女満別町からは毎年この「産業まつり」に参加されており、やあ、オウ、と声がかかっていました。この見学中に「稲城の梨」が欲しいとの事で高橋さん宅にお願いして購入されました。

今回来訪で最後の予定の稲城市の体育施設の見学は野球場・総合グラウンド・体育館を案内し職員より説明を受け、施設の利用状況などに質問があり、健康な暮らしを

ニス、硬式庭球の連盟理事とともに交流会は進行しました。

西部助役及び高橋会長が歓迎の挨拶を、阿野団長より来訪の挨拶があり、出席者も女満別への研修や、スポーツ交流を通じて顔見知りの方もあり、和やかな自己紹介が行われた。

稲城市体協の年間の事業のあらましを志村副理事長が行い、また出席連盟の理事よりそれぞれの立場で連盟の活動や事業についての説明をしました。

同じ様に女満別体協の活動について個別の説明があり、質疑がなされた。

サッカーは人气的にも少年の参加が多いが、他のスポーツの連盟ではその分少年が少なくて困っている事などが説明され、対応に苦慮している事がこれからの課題となっていました。2時間近い交流会の中で情報の交換や、これからも長いスポーツ交流が続いて行く事が認識されて閉会となりました。

このあと場所を「よみうりランド天安」に移し、新たに全連盟よりの参加者を加えて懇親会が和やかに開宴されました。各テーブルは対応する連盟毎に設けられ、楽しいひとときが続き、研修やスポーツ交流での話題には一層の親しき感じの事でした。名残りがつきない夜は懇親会がお開きになった後、有志による二次会へと続きました。

目指す運動施設がより充実してゆく事が望まれます。
 私達はこの交流を通じて情報を共有し、意欲を語り、さわやかに親しみのわく、ほんとうの出会いが愛着の持たれる体協へととなってゆく事でしょう。
 相互の体協、これからもスポーツ交流の輪が広がってゆく事を祈りつつ、ご苦労様でした。



人物紹介 シリーズ

このたび、「稲城市体協だより」では、いくつかの連盟の推薦で、日頃各連盟の為に、陰になり、日向になつて骨身を削りつて私達を支えていただいている人々をご紹介する「人物紹介シリーズ」を掲載することとしました。皆さん既におなじみの方もいらっしゃると思いますが、ここで改めてご紹介した方が感謝の念をあらわしたいと思ひます。今回は、まず第一回ということで、五人の方に登場して戴くことになりました。次回からのご紹介をお待ちしております。

○稲城サッカー スポーツ少年団

今井さん

今井さんのサッカーの歴史は、稲城のサッカーが歩んで来た二十余年間、それを遙かに越えるものと聞いています。でも、今井さんの口からはそんな事はちっとも出ません。口をついて出るのは、今の子供たちに対して、今のサッカーに対して、それだけです。
 小学校の一、二年生、それからジュニアコースのチーム、全く違った年齢の子供達を相手に教えること、それはサッカーの楽しさ、厳しさ、一貫しています。
 「楽しいサッカー」って何？



でもサッカーって楽しいだけじゃないんだよ。そんな事をいつもいつも子供達に語り、ボールを蹴って身体で表わす、これが毎日曜日の朝、私達に見せてくれる今井さんの現在です。
 そして又、今井さんのパフォーマンスはサッカーのグラウンドだけに限りません。サッカーに対する情熱と主張を言葉に表わし、言葉で残そうと云う努力をされていきます。処女作「親父コーチに向けて」が、Jリーグチャーマン川淵さんの目にとまりました。

そして地域に根付いた地道な底辺拡大の活動に対して、大変高い評価と感謝の言葉を戴きました。まだまだ書き足りないそうです。近々第二作が発表されます。「技術編」だそうです。団員一同期待して待っています。

私達稲城サッカーの子供達、そしてお父さん、お母さん、みんなサッカーが大好きです。その代表が今井さんだと思います。みんな負けずにサッカーが好きになろうと頑張っています。

今井さんのあの真黒い顔に近づきたいと、子供達、そしてコーチ達、もちろんお父さん、お母さん、練習に、応援に、グラウンドの中、張り切って動きまわりたいと思っています。

稲城サッカー
スポーツ少年団
塩澤憲行(記)

○軟式野球連盟

藤原正雄さん

「白線にかけた25年」
 軟式野球連盟を語る時、この人の存在なくしては語れません。それは過ること30年前のこと、秋田のとある村から稲城の野球のた



▲白線にかけた藤原さん

めにやって来た一人の男がいます。野球バカなこの男は、選手としてゲームをすることが三度の飯よりも好きなことでした。暇さえあれば野球に励む毎日でした。時が過ぎる年令に勝てなくなった頃から、連盟の審判員として第二の野球人生を歩み始めました。

それは苦難のみちのりです。快適にゲームができるよう雨上りの土曜日には明日のゲームの為に、また日曜日は早朝6時からグラウンドの整備を生甲斐として暮らしていました。

グラウンドの白線に秘めた思いは今も彼をとりこにしています。前日の体調が即白線に表れてきます。二日酔いの時は線の太さがまちまちで、下痢気味の時は点線となってしまう。

そこで彼は思いました。満足いく線を引くためには日頃体調を整え、特に前日は好きな酒に誘われてもかたくなに断り、明日の白線のために早寝もしましたが、長くは続きませんでした。

どんなに体調が悪くても満足いく白線を引くことに情熱を燃やし、今や彼を越すものはいません。「たかが白線、されど白線」彼はこれからも白線とともに、こだわりの人生を歩む事でしょう。

その男こそ
 「審判部長 藤原正雄さん」です。

軟式野球連盟
大庭巖雄(記)

○バレーボール連盟

北島さん



長年に渡り連盟を陰ながら支え、又、会計という地味ながらも重責を担ってこられた北島さんを紹介いたします。家計のやりくりも大変な昨今、人様の大切なお金を預り、限られた予算の中で運営していかなければならぬ大変な長期間ご苦労されてきました。又、長年に渡り地域の小学生の指導もしており、今だに若さを保たれている体力と気力には敬服致します。

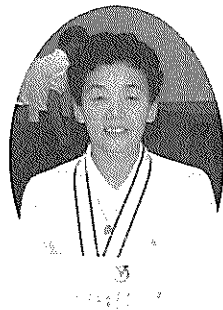
現在は副理事長として理事長を助け、理事の指導的立場として人柄の良さに多くの方々からの信頼を得ております。

これからも当連盟が大きく発展して行く原動力となつて下さるものと期待しています。

バレーボール連盟
鎌田(記)

○剣道連盟

小池房子さん



剣道は楽しい!!
 「メーン、コテ、ドー」小柄な体から気迫のこもった声がひびく。声の主はこの人、
 小池房子先生
 小池さんは、お年五十才の普通のおばさんである。ただ少しばかり普通のおばさんと違うところは剣道が好きで、四段の実力者というところである。

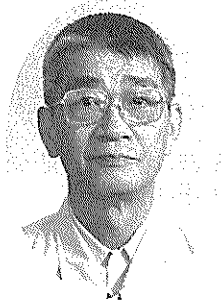
小池さんは稲城の女子、婦人剣道をこころで育て上げた陰の功労者でもある。少年剣道の付き添いで来たお母さん方に剣道をPRし、「今日はどこまで稽古があるから、一緒に行きましょう。」と渋るお母さん方に電話攻撃、また何かと世話を焼いて面倒をみる、一人が二人、二人が三人と、そしてみんなを剣道の虜にしてしまった、罪人である。

日曜日となるとお母さん方が防具をかついで出掛けてしまうから、旦那さんにとっては迷惑な話かも知れない。

田中(記)

○バドミントン連盟

福田正一さん



昭和4年2月13日生れ(66才) 稲城市矢野口2337の4
 『稲城シャトルクラブ』に昭和58年に入会し、昭和60年度同クラブの書記と体育館担当(鍵の管理)を兼務して、現在もその役務を遂行しています。

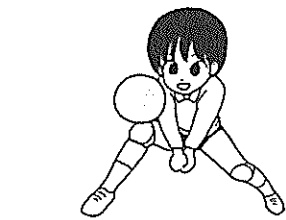
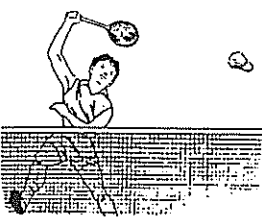
昭和61年度には同クラブの副会長への昇格と共に、稲城市バドミントン連盟の理事として、連盟の運営に携わることになり、昭和61年度より平成元年度までは理事、平成2年度から平成4年度までは当連盟の書記として、連盟の運営及び発展に寄与された。(参考までに、稲城市シルバ財団でも活躍しています。)

現在は、稲城シャトルクラブで副会長と会計及び体育館担当(鍵の管理)を兼務して、裏方として活動しています。また、チームの初心者指導も行っています。

最後に、「クラブの仲間が練習で流す汗を見て、スポーツを楽しむ姿を見ることが何よりも楽しみです。」と本人の弁です。

これからも、クラブと連盟の運営に協力いただき、裏方として更なる活動をお願いします。

木村均(記)



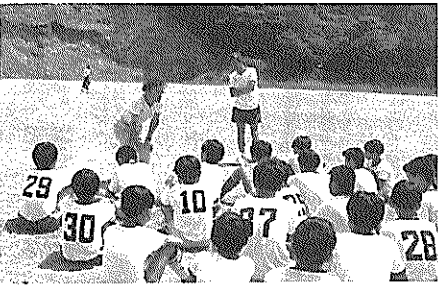
▼総合体育館視察を終えて



▲歓迎式にて

歓迎 女満別町体育協会

▼子供達とミーティング



「稲城」の剣士ここにあり 優勝：準優勝

平成七年九月二十三日、暑さが残る立川市の泉市民体育館において、西東京剣道大会（主催：西東京剣道連盟、後援：東合会、後援：東京都剣道連盟、読売新聞社）が行われ、多摩地区の二十七市町村にある二十八団体が参加し開催されました。今回の大会は、西東京剣道連盟の創立三十周年の節目となる記念大会で各団体を代表し、約七百名の選手が参加し、小学生団体の部、中学生団体の部、一般団体の部、男子個人の部、女子個人の部に別れ競技を行いました。試合に先立っ



▲第27回稲城市民体育大会開会式

て、長内淳介教士八段（稲城市剣道連盟会長・矢野口住）と波多野登志夫教士八段（武蔵村山市）による日本剣道形の披露があり、その見事な太刀さばきに大きな拍手がおこられました。競技においては、女子個人の部で栗山理絵さん（スーパー三和稲城店勤務・矢野口住）が強豪を押し退けて見事に初優勝を飾りました。男子個人の部においても甲斐睦章（富士通勤務）が決勝戦まで進み、再三の延長を行い、無念にも胴の一本負けで勝負が決しました。準優勝に輝き稲城の名を高めました。



▲都民大会の入場行進

平成七年七月十五日（土）消防署講堂において、スパイラルテープの講習会（主催：体育協会）が開催されました。講師に宮本接骨院院長、宮本淳一氏を招き、講習参加者87名で実際にスパイラルテープを患部に貼ってもらったり、宮本先生の指導によって互いにテープを貼ることを覚えたり、また自分でテープを貼ることも出来る様になりました。「スパイラルテープとは」スパイラルとは、らせんという意味です。つまりらせん状に体にテープを貼ると、体の筋肉のバランスを正常にして、その人が持っている運動能力を高めたり、筋肉のゆがみを取って、肩や腰、ひざなどの痛みを解消したりするのに、不思議なほど効果を現すのです。（一九九四年の正月の箱根駅伝の山梨学院大学の選手が貼って走りました。）

▼スパイラルテープの講習をうける



体育協会研修会

貼ることも出来る様になりました。「スパイラルテープとは」スパイラルとは、らせんという意味です。つまりらせん状に体にテープを貼ると、体の筋肉のバランスを正常にして、その人が持っている運動能力を高めたり、筋肉のゆがみを取って、肩や腰、ひざなどの痛みを解消したりするのに、不思議なほど効果を現すのです。（一九九四年の正月の箱根駅伝の山梨学院大学の選手が貼って走りました。）

第48回都民体育大会結果

☆剣道 男子団体戦 1回戦 対中央区 2:3	☆バドミントン 男子 1回戦 对小金井市 2:1 2回戦 対杉並区 1:2 女子 1回戦 対中央区 2:1 2回戦 対立川市 0:3
☆サッカー 1回戦 対荒川区 1:0 2回戦 対杉並区 3:2 3回戦 対日野市 PK 5:4 4回戦 対渋谷区 1:3	☆弓道（各々決勝進出できず） 男子 40射中 的中18 女子 40射中 的中12
☆ソフトテニス 男子 1回戦 対秋川市 5:0 2回戦 対豊島区 3:2 3回戦 対板橋区 0:3 女子 1回戦 シード 2回戦 対多摩市 0:3	☆空手 1回戦 シード 2回戦 対練馬区 0:4
☆卓球 男子 1回戦 シード 2回戦 対目黒区 1:3	☆射撃 トラップ 31位 スキート 37位 総合 36位
☆バレーボール（準優勝） 男子 1回戦 対大田区 2:0 2回戦 対八王子 2:0 3回戦 対目黒区 2:0 準優勝 対中央区 2:1 決勝 対三鷹 0:2 女子 1回戦 対立川市 0:2	☆バスケットボール 男子 1回戦 対板橋区 53:50 2回戦 対中央区 75:48 3回戦 対新宿区 69:79 (ベスト16位) 女子 1回戦 シード 2回戦 対江戸川区 66:46 3回戦 対世田谷区 43:60 (ベスト16位)
☆硬式庭球 男子 1回戦 対足立区 0:3 女子 1回戦 対国立市 1:2	☆ソフトボール 男子 1回戦 対葛飾区 1:10 女子 1回戦 対世田谷区 1:2
☆軟式野球 1回戦 対保谷市 0:5	☆陸上 男子 1,500m 秋本久雄 予選落 砲丸投 住谷淳子 予選落

第7回都民スポ・レク結果

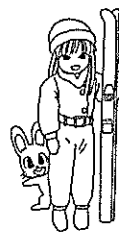
☆ゲートボール 稲城Aチーム 対小平B 19:8 対多摩市B 12:16 対松原村A 23:8 稲城Bチーム 対武蔵野市B 19:9 対立川市A 8:13 対五日市町A 20:8	☆硬式テニス（準優勝） リーグ戦 対秋川市 2:1 対豊島区 2:1 対立川市 2:1 準決勝 対中野区 2:1 決勝 対板橋区 1:2
☆弓道 参加団体総数42チーム 予選通過できず	☆アマチュアダンス 優良賞（ミドルシニア、モダン、ラテン）
☆剣道 予選落ちでトーナメント戦に出場できなかった	☆ソフトテニス 対小金井市 0:3 対杉並区 1:2 対調布市 1:2
☆陸上 Eクラス男子 1,500m 福島初五郎 第4位 Cクラス男子 1,500m 秋本久雄 第6位 Bクラス女子 1,500m 石坂淑子 第3位 Cクラス女子 5,000m 田村さよ子 第11位 Cクラス男子 砲丸投 藤長見典 第1位 円盤投 藤長見典 第1位	☆ソフトボール 1回戦 対港区 5:14
☆綱引 予選リーグ 3位で決勝トーナメント進出 決勝トーナメント 対みはとパワーズに敗ける	

平成7年青年大会結果

☆弓道 予選24チーム 稲城市は予選通過の為の 8位以内に入賞できず 決勝進出ならず	☆バレーボール 男子 1回戦 対渋谷区 2:1 2回戦 対港区 2:1 準決勝 対北区 0:2 (結果第3位)
☆バスケットボール 男子 1回戦 対葛飾区 57:47 2回戦 対北区 45:36 3回戦 対武蔵野市 20:0 準決勝 対足立区B 97:64 (結果第3位)	☆剣道 男子 1回戦 対足立区 0:5 女子 1回戦 対中央区 0:3
☆陸上 1名 予選落	

賛助会員の皆様へ

厳しい経済状況の中、体育協会では健全財政の確立に努めておりますが、未だ賛助会費にその一部を頼るところです。今年度寄せられた賛助会員の皆様により感謝申し上げます。今後共、尚一層のご支援をお願い申し上げます。



編集後記

体協創立時の連盟の中から、連盟の裏方で支えてくれた人や苦勞人などを紹介しています。一層のご活躍を期待します。姉妹都市女満別町とのスポーツ交流はバレー、野球の2連盟がその目的を果し、10月には女満別町より視察来訪がありました。さらに私達はスポーツを通して市民の体力、健康づくりに努めて行きます。

第27回稲城市民体育大会 開催される

秋の市民スポーツの祭典、稲城市民体育大会が9月3日(日)から約4ヶ月にわたり、市民の体育施設を中心に開催された。全競技19種目に日頃の練習の成果を充分に発揮された事でしょう。

編集委員長 副委員長 委員	池水 和己 川村 秀武 志村 精二 山口 和美 山本 和子 遠藤 豊 榎本 勝子 篠崎 好史 武田 保彦 鈴木 真博 田中 眞行 斎藤 里 松浦 行
---------------------	--